

和の光

宝塚市立西谷中学校



つついスマホ

匿名希望

中学生のころだったか、先生から言われたことが今も頭の片隅に残っている。それは、「わからないことがあるときに、他の人に教えてもらえばすぐにわかって簡単に解決できるが、すぐに頭から消えてしまう。自分で辞書や教科書を調べたことは自分の頭にしっかりと残る。」ということでした。

現代は情報化社会と言われ、殆どの人がスマートフォンやパーソナルコンピュータを持ち、わからないことや知りたいことを苦勞せずに調べることができるようになり大変便利な世の中になりました。

しかし、先日、新聞の記事を見てみると、『スマホを使う時間が長い子は勉強時間や睡眠時間とは関係なく学力が下がることや脳の幅広い領域がほとんど発達しないことなどがわかってきた。スマホの多機能性が悪影響を及ぼし、現代の人間の集中力は「金魚以下」という海外の研究結果も出ている。

何かを調べるときも、紙の辞書を使うかスマホで見るかで前頭前野の動きが全く違う。物事を記憶にとどめて思い出すというのは、とても労力を使う作業で、それをスマホがやってくれるなら任せよう、と脳は判断する。目的は、情報を得ることなのか、学習することなのか。それを見極め、辞書とスマホを使い分けることが大切である。

脳は使えば育ち、使わなければどんどんダメになる。』と書かれていました。

日常の勉強でわからないことがあったときには、スマホやタブレットなどの電子機器で調べるのではなく、教科書や辞書を使ってわからないことを自分でわかるようにすることが大切です。

自分で苦勞して調べてわかったことは、「そうだったのか、こういう風にすればよいのか」という発見につながり、記憶に長く残ることになるのです。このことは、どの年代の人でも変わることはないと思います。この文が少しでも皆さんの役に立てば幸いです。

※西谷中のある先生から「校長先生、もしよければ学校通信に役立ててください」と声を掛けていただき、上記の原稿をいただきました。

現代はICTが発展しており、パソコンやスマートフォンで何でも簡単に調べたり、疑似体験したりすることができます。パソコンやスマートフォンを効率よく使いこなすことはこれからの時代を生き抜くためには必要なスキルですが、全てをこれらに頼るのではなく紙の辞書や資料を読んで調べたり、博物館などに足を運んでみたりと、自分の手足を使って苦勞しながら調べる経験を大切にしたいです。このことは、理論物理学者アルバート・アインシュタインの名言にもあります。みなさんはどの様に感じましたか？

The only source of knowledge is experience.

（知識の源はたった一つしかない。それは経験である）

校長 筒井 啓介

■国語科 書写の授業

書道パフォーマンスでお世話になった足立有里さんを講師にお招きして、国語科の南先生と共に授業を行いました。練習を積み重ねるうちに、字が上達していく様子が実感できるので、みんな真剣に取り組んでいました。その時の様子を紹介します。（12月3日 火曜日）



各自の力作を持って記念撮影（3年生）



各自の力作を持って記念撮影（2年生）



各自の力作を持って記念撮影（1年生）